

科目名	文章の表現 I	科目分類	■教養科目 □専門科目	
				□必修 ■選択
			□必修 □選択	
英文表記	Composition I	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	はしもと しほ	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	橋元志保	修得単位	2 単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕優れた文学的文章を読みとき、それを考察し、表現する力を養成する。 〔テーマ〕読解力と表現力。文章表現の基本を身につける。			
準備学習	総合的に、読む力・書く力・表現する力を伸ばしていくので、毎回出される課題を着実にクリアすること。			
【授業概要】				
<p>言葉を使い、表現することは、人間だけに許された特権であります。読み手は言葉から、様々なイメージや情感を受け取り、その表現された世界に分け入っていくことが出来ます。和語の持つ、優しい美しい響き。漢語の持つ、明晰さと力強さ。外来語の持つ、モダンな響き。様々な言葉を組み合わせて、生み出される豊穡な日本語の世界。</p> <p>本講義では、優れた文章を読み、日本語の美しい表現、豊かで正確な語彙を身につけていく、基礎力と感性を養います。併せて、論理的な文章が書けるようになるために、構成法や論証の仕方も学んでいきます。</p>				
授業計画				
第 1 回 より良い文章を書くために				
第 2 回 「読むこと」と「書くこと」				
第 3 回 テーマと構成法				
第 4 回 エッセイの書き方①－切り口とは－				
第 5 回 エッセイの書き方②－テーマの重要性－				
第 6 回 エッセイの書き方③－文学賞作品集から－				
第 7 回 推敲の方法－削るとのこと－				
第 8 回 名文を読む①－イチャエル・カーソンの文章から－				
第 9 回 名文を読む②－東山魁夷の文章から－				
第 10 回 名文を読む③－平山郁夫の文章から－				
第 11 回 論作文を書いてみよう①				
第 12 回 論作文を書いてみよう②				
第 13 回 論作文を書いてみよう③				
第 14 回 推敲と批評				
第 15 回 総括				
第 16 回 前期試験				
テキスト	辰濃和男『文章のみがき方』			
参考文献	授業の際に紹介します。			
評価の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とします。			
学生への メッセージ				

科目名	文章の読み方	科目分類	■教養科目 □専門科目
			□必修 ■選択
			□必修 □選択
英文表記	Study of Modern Japanese Literature	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	はしもと しほ	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	橋元志保	修得単位	2 単位
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 随筆・論説文を正確に把握する読解力、及びそれを考察できる力を身につける。 〔テーマ〕 読解力と表現力		
準備学習	段階的に、随筆や論説文の難易度を上げていくので、配布された資料を良く読んで、復習すること。課題のプリントは必ずやってくる。		
【授業概要】			
<p>「読むこと」は「書くこと」と同様に、創造的な行為であるということは、昨今の文学研究における共通認識となっています。つまり、あなたの目の前に存在する文章は、あなたが読まなければただのインクの染み、活字の羅列に過ぎません。読者であるあなたが「読むこと」によって、初めて活字は言葉となり、文章は理解され、意味を持つのです。</p> <p>「本を読む人は、もう一人の親友を持っているようなものだ」とは良くいわれることですが、「読むこと」の可能性は、常にあなた自身の前に開かれています。「読むこと」によって、わたしたちは可視の世界を超えた様々な事物に出会うことができます。また、「読むこと」はあらゆる勉学の基礎でもあります。</p> <p>本講義では、様々な分野の文章を読むことによって、読解力とそれを表現する力を養い、自分自身の思考を深めていく一助にしたいと考えています。</p>			
授業計画			
第 1 回 「読むこと」と「書くこと」－研究のための読書とは－			
第 2 回 文章のテーマ・構成・表現とは			
第 3 回 論説文を読む①－キーワード読み－			
第 4 回 論説文を読む②－要旨を捉える－			
第 5 回 論説文を読む③－構成とテーマ－			
第 6 回 随筆を読む①－和辻哲郎「樹の根」－			
第 7 回 随筆を読む②－和辻哲郎「土下座」－			
第 8 回 随筆を読む③－和辻哲郎「すべての芽を培え」－			
第 9 回 文章整序・長文読解について			
第 10 回 論理的文章を読む①－小林秀雄「ほんもの・にせもの展」－			
第 11 回 論理的文章を読む②－小林秀雄「美を求める心」Ⅰ－			
第 12 回 論理的文章を読む③－小林秀雄「美を求める心」Ⅱ－			
第 13 回 公務員試験対策－文章理解について－			
第 14 回 論文を読む①－歴史・文学・文化人類学から－			
第 15 回 論文を読む②－歴史・文学・文化人類学から－			
第 16 回 前期試験			
テキスト	資料を配布します。		
参考文献	授業時に紹介します。		
評価の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とします。		
学生へのメッセージ			

科目名	地理学の基礎 I	科目分類	■教養科目 □専門科目	
			法学部	□必修 ■選択
			経済学部	□必修 ■選択
英文表記	Geography I	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	ごとう ただし	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	後藤 忠志	修得単位	2単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕地理学の諸分野について広く学び、地域を見る目を養います。 〔テーマ〕地理学入門			
準備学習	・可能であれば、高校か中学校の地理の教科書や地図帳を使って、毎回の関連項目に目を通しておくと学習しやすいでしょう。			
【授業概要】本授業では、地理学を系統的にみて現代の地理学が扱っている最新テーマを題材に地理学という学問の広がりや地域の見方について学びます。地理の楽しさを伝えたいと思います。				
授業計画				
第1回 地理学への招待				
第2回 自然地理学1(気候)				
第3回 自然地理学2(火山)				
第4回 自然地理学3(河川)				
第5回 自然地理学4(台地、丘陵地、平野)				
第6回 自然地理学5(森林)				
第7回 自然地理学6(湖)				
第8回 自然地理学7(海岸)				
第9回 人文地理学8(海洋)				
第10回 人文地理学1(農業地理学、工業地理学、商業地理学)				
第11回 人文地理学2(環境地理学、資源・エネルギー地理学)				
第12回 人文地理学3(交通地理学、人口地理学)				
第13回 人文地理学4(都市地理学、災害地理学)				
第14回 人文地理学5(地図学、立地論)				
第15回 世界遺産と地域社会(白神山地、白川郷、五箇山他)				
第16回 試験				
テキスト	二宮書店『詳解現代地図 2011-2012』、2011年、1600円			
参考文献	授業中に紹介します。			
評価の方法	総合評価(出欠、受講態度、提出物、試験等)			
学生への メッセージ	地理学の基礎 I、II はできるだけ通年履修することを望みます。			

免許状教科	教職中社・高地必修		
科目名	日本の歴史Ⅰ	科目分類	■教養科目 □専門科目
			□必修 ■選択
英文表記		開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	はなだ ふじお	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	花田 富二夫	修得単位	2単位
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕日本の歴史に関する理解を深める 〔テーマ〕日本史を考えながら学ぶ		
準備学習	※日本の歴史上重要な事件がおきました。当授業ではそれらの中からいくつかのテーマを選び、その内容や歴史上の意義付けについて考えてみます。受講者数によって担当を割り当てるかもしれませんが、下記の事件について、あらかじめ概要を振り返ってください。		
【授業概要】日本の歴史上の事件や人物などについて、それらの意義を日本史との関係から学びます。			
授業計画			
第1回 講義入門			
第2回 鎌倉幕府の成立時期は			
第3回 元寇の役の実態は			
第4回 室町幕府と金権とは			
第5回 信長の戦いとは			
第6回 文禄・慶長の役（1）とは			
第7回 文禄・慶長の役（2）とは			
第8回 鎖国の実態とは			
第9回 島原の乱の実態とは			
第10回 参勤交代と大名とは			
第11回 江戸時代の農民とは			
第12回 武士道とは			
第13回 日清戦争とは			
第14回 日露戦争とは			
第15回 アジア・太平洋戦争への道とは			
第16回 試験			
テキスト	特になし プリントで行う		
参考文献	講義時間に指示する		
評価の方法	※毎回の出席ならびに小レポート、及び最終試験で総合的に評価する。		
学生への メッセージ	知識だけでなく自ら考える態度を求めます。積極的に発言してください。		

科目名	自然科学概論Ⅰ（自然の科学Ⅰ）	科目分類	■教養科目 □専門科目	
			全学	□必修 ■選択
				□必修 □選択
英文表記	Natural Sciences I	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	むらなかたかし	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	村中 孝司	修得単位	2単位	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>〔到達目標〕地球上の自然の構成要素や生物の分布など、これまで得られている科学的な知見を概観することを通して、科学の諸問題に対する認識を深める。</p> <p>〔テーマ〕自然界の構成要素と生命の世界</p>			
準備学習	果実はなぜ鮮やかなのか、生命の進化の過程でもっとも適した「形質」は存在するのか。事前に考えておくこと。			
<p>【授業概要】私たちは自然についてどれだけの事実を知っているだろうか。地球が誕生して46億年、地球上に生命が誕生して38億年、現在、私たちが地球上で見ることのできる生物の多様さはどのようにして作り出されてきたのだろうか。そして、地球最初の生命はどのようにして生み出されたのか。講義では自然界の主要な構成要素である生物の世界を中心に上げ、(1)自然界の中の生物集団、(2)生物群集の構造と機能、生物と生物の相互作用、(3)生物群集の分布などを紹介し、(4)生物の誕生と進化と我々人類の歴史を理解することを目指す。</p>				
授業計画				
第1回	ガイダンス			
第2回	自然界の構成要素(1)：主体－環境系 環境要因、環境条件と資源、制限要因			
第3回	自然界の構成要素(2)：動物の行動と社会 動物の社会、行動、社会性昆虫			
第4回	自然界の構成要素(3)：植物の成長と繁殖 植物の器官、花と果実・種子、葉、茎、根			
第5回	自然界の構成要素(4)：生態系とエネルギー段階 食物連鎖、食物網、生態系ピラミッド			
第6回	生物群集の構造と機能(1)：捕食－被食、種間競争 さまざまな種間関係、捕食と寄生、デトリタス食、競争と棲み分け			
第7回	生物群集の構造と機能(2)：共生と寄生 植食動物と腸内細菌、アリ・シロアリ社会と共生			
第8回	生物群集の構造と機能(3)：微生物 菌類、原生動物、藻類、バクテリア、ウイルス			
第9回	生物群集の分布(1)：気象条件と地理的な分布 気温・降水量と植物群系、世界の植物群系、日本列島の植物群系			
第10回	生物群集の分布(2)：時間的分布 生物群集の遷移、攪乱と退行遷移			
第11回	生命の誕生と進化(1)：自然選択 地球と生命の系譜、遺伝と突然変異			
第12回	生命の誕生と進化(2)：進化のみちすじと動物の進化 遺伝子解析による進化のみちすじの推定、個体発生と系統発生			
第13回	生命の誕生と進化(3)：光合成生物の進化 光合成細菌と細胞内共生、藻類と植物、共進化			
第14回	生命の誕生と進化(4)：進化をもたらすさまざまな要因 至近要因と究極要因			
第15回	生命の誕生と進化(5)：人類の進化 人類の誕生、現代人類の進化と分布、「人種」とは何か			
第16回	試験			
テキスト	配布資料			
参考文献	<p>四手井綱英『森の生態学』、木村資生『生物進化を考える』、岩科司『花はふしぎ』 犬塚則久『「退化」の進化学』、三井誠『人類進化の700万年』</p>			
評価の方法	試験、レポート（随時実施する）			
学生への メッセージ	<p>「自然」とは何か、「生命」はどこからやってきたのか、そして「人類」は？ なお、自然の科学Ⅱを併せて履修することが望ましい。</p>			

科目名	環境のはなしⅠ (環境論Ⅰ)	科目分類	■教養科目 □専門科目	
			法律	□必修 ■選択
			経済	□必修 ■選択
英文表記	Environmental SciencesⅠ	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	りきいし くにお	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	力石 國男	修得単位	2 単位	
授業の到達目標 及びテーマ	<p>[到達目標] 毎日のようにマスコミで報道される地球環境問題について、その発生原因と実態について理解を深め、対応策について考えられるようになること。</p> <p>[テーマ] 地球環境問題の理解と対策</p>			
準備学習	普段から新聞・テレビで報道される地球環境問題に関心を持って視聴し、自分の知識を整理しておくこと。			
<p>【授業概要】 環境とは“取り囲むもの”を意味し、地球環境，自然環境，都市環境，社会環境，生活環境，コンピュータ環境など、種々な言葉があります。このうち本授業では地球環境問題に焦点を当て、代表的な環境問題を取り上げてその発生原因と実態について深く学びます。</p>				
授業計画				
第1回 ガイダンス				
第2回 人工衛星による地球観測（1）—大気—				
第3回 人工衛星による地球観測（2）—海洋—				
第4回 人工衛星による地球観測（3）—雪氷圏—				
第5回 人工衛星による地球観測（4）—植生と砂漠化—				
第6回 地球環境問題（1）—地球温暖化Ⅰ—				
第7回 地球環境問題（2）—地球温暖化Ⅱ—				
第8回 地球環境問題（3）—オゾン層の破壊Ⅰ—				
第9回 地球環境問題（4）—オゾン層の破壊Ⅱ—				
第10回 地球環境問題（5）—酸性雨Ⅰ—				
第11回 地球環境問題（6）—酸性雨Ⅱ—				
第12回 地球環境問題（7）—エルニーニョ現象Ⅰ—				
第13回 地球環境問題（8）—エルニーニョ現象Ⅱ—				
第14回 地球環境問題（9）—雪氷圏の衰退Ⅰ—				
第15回 地球環境問題（10）—雪氷圏の衰退Ⅱ—				
第16回 試験				
テキスト	資料を配布します。パワーポイントも使います。			
参考文献	必要に応じて授業中に指示します。			
評価の方法	試験、ミニテスト(随時実施)			
学生への メッセージ	21世紀を生きる人は地球環境問題をしっかり学んでください。			

科目名	現代社会と経済	科目分類	□教養科目 ■専門科目
			■必修 □選択
英文表記	Modern Society and Economy	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	やまもと しゅん	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	山本 俊	修得単位	2単位
授業の到達目標及びテーマ	日本の経済問題と日本経済の特徴を関連付けて学習する。各受講者は授業を通じて日本経済の全体像を描き、個別専門領域に取り組むための基盤形成を期待する。		
準備学習	① 高校政治経済の教科書を再読されたい。 ② 授業の復習は必ずその日に行うこと。		
【授業概要】これから経済学を学ぼうとすることを前提に、現代の経済社会を概観し、各経済問題とのつながりを見る。授業は3部から構成される。第1部では経済システムの形成過程に注目し、第2部では経済の構造的な問題に注目する。第3部では最近の経済問題に注目する。 グラフの見方や統計データの利用方法についても学習する。			
授業計画			
第1部（第1回、第2回、第3回、第4回） テーマ：戦後復興と日本の経済成長、講義資料配布 ガイダンス、第2次世界大戦後の日本の復興を大きく振り返る。日本の経済成長を世界の国々の経済成長パターンと対比する。資本蓄積、技術進歩、貿易の役割、高貯蓄などの成長要因に注目する。前半は、戦後復興期、中盤は高度経済成長期、後半は低成長期を扱う。			
第2部（第5回、第6回、第7回、第8回） テーマ：日本の経済システム、講義資料配布 混合経済の視点から、市場活動と政府の役割を論じる。企業、労働、金融などの領域での日本の特徴を検討し、世界の多様な資本主義と対比する。後半では、社会保障や平等と不平等についても言及する。			
第3部①（第9回） テーマ：我が国の人口の変化と労働問題、講義資料配布 我が国の人口問題を取り上げる。また、日本的雇用慣行の変化と非正規雇用について取り上げる。			
第3部②（第10回） テーマ：地域間格差と地方分権、講義資料配布 地域間格差とそれを是正するための政府の政策について考察する。			
第3部③（第11回） テーマ：日本の食料と農業、講義資料配布 日本の食糧問題と農業政策について取り上げる。セーフガードの発動、環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)			
第3部④（第12回） テーマ：金融制度と金融市場の変化、講義資料配布 日本の金融システムの変化を、金融ビックバン、バブル崩壊後の「市場型間接金融」などの制度改革に注目して解説する。			
第3部⑤（第13回） テーマ：失われた十年、講義資料配布 バブル崩壊後の十年以上の長期的な経済停滞のマクロ経済問題を論じる。資本ストックの過剰、不良債権問題、景気回復のマクロ経済政策などを取り上げる。			
第3部⑥（第14回） テーマ：日本企業の国際競争力、講義資料配布 加工組立からハイテク・ハードウェアや半導体メモリーに焦点をあて、日本企業の最近の評価と問題点を見る。			
第3部⑦（第15回） テーマ：変化する産業構造、講義資料配布 産業構造の変化を工業統計、商業統計を利用して確認する。			
第16回 期末試験 試験範囲：第1回から第15回まで。			
テキスト	講義資料。ただし、副読本として、橋本寿郎 他『現代日本経済』有斐閣アルマ、2009年		
参考文献	①浅子和美・篠原総一 編『入門・日本経済』有斐閣、1997年 ②寺西重郎『日本の経済システム』岩波書店、2003年 ③原朗 編著『高度成長始動期の日本経済』日本経済評論社、2010年 ④斎藤修『比較史の遠近法』NTT出版、2000年		
評価の方法	期末試験 150点、小テスト100点、小レポート50点の合計点で評価。 A評価:80%以上、B評価:70%以上、C評価:60%以上、D評価:50%以上 小テストは受講者が理解度を自ら確認するという意味でも重要である。 試験については努力が報われるような出題を心がける。		
学生へのメッセージ	日本経済についての好奇心を喚起し、さらに詳しく学びたいような授業としたい。		

科目名	マクロ経済学	科目分類	□教養科目 □専門科目	
				□必修 □選択
英文表記		開講年次	□1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	かわい のぶはる	開講期間	□前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	河合 伸治	修得単位	2単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕マクロ経済学の基本的な見方・考え方を習得する 〔テーマ〕マクロ経済学とはどのような学問か？			
準備学習	入門経済学で習得した知識があることを前提に講義を進めていきますので、授業の復習をしておいて下さい。			
【授業概要】 マクロ経済学の基本的な見方・考え方を習得できるような授業を展開していきます。				
授業計画				
第1回 ガイダンス マクロ経済学の基本的な考え方				
第2回 経済をマクロからとらえる				
第3回 有効需要と乗数メカニズム				
第4回 問題演習				
第5回 貨幣の機能				
第6回 マクロ経済政策				
第7回 問題演習				
第8回 インフレと失業				
第9回 財政政策のマクロ経済分析				
第10回 問題演習				
第11回 経済成長と経済発展				
第12回 問題演習				
第13回 国際経済学①				
第14回 国際経済学②				
第15回 問題演習				
第16回 まとめ				
テキスト	必要に応じてプリントを配布します			
参考文献	授業中に適宜紹介して行きます			
評価の方法	出席点(確認テスト等も含む)40%, 試験60%			
学生への メッセージ	経済学は英語や数学と同じく毎回の授業で得た知識を着実に積み上げていくことによって理解が深まる科目です。毎回の授業を確実にモノにできるよう、特に授業の復習に力点を置いて下さい。授業では問題演習及び簡単な確認テスト等を繰り返し行うことによって知識の確実な習得を目指します。			

科目名	国際経済学Ⅰ	科目分類	□教養科目 ■専門科目
			経済 マネジメント
英文表記	International EconomicsⅠ	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	まえだ なおや	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	前田 直哉	修得単位	2 単位
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 為替レートと国際収支の基礎理論を理解する。 〔テーマ〕 為替レートと国際収支		
準備学習	授業の前にテキストを必ず読んでおくこと。		
【授業概要】1990年代に入って経済のグローバル化が急速に進んだ。この現象を理解するためには国際経済学の理論のみならず、その歴史・制度についても学習することが必要である。本講義の目的は為替レートと国際収支の基礎理論を学ぶことにある。なお、為替レートと国際収支の基礎理論に関する理解を深めるため、講義中に質問を適宜行う。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 国民経済計算と国際収支統計			
第3回 国際収支表の見方(1)			
第4回 国際収支表の見方(2)			
第5回 為替レートと為替相場制度			
第6回 為替レートと経常収支(1)			
第7回 為替レートと経常収支(2)			
第8回 小テスト			
第9回 国際マクロ政策：マンデル＝フレミング・モデル(1)			
第10回 マンデル＝フレミング・モデル(2)			
第11回 マンデル＝フレミング・モデル(3)			
第12回 国際通貨制度の変遷(1)			
第13回 国際通貨制度の変遷(2)			
第14回 国際通貨制度の変遷(3)			
第15回 小テスト			
第16回 定期試験			
テキスト	多和田眞(2010)『コンパクト国際経済学』新世社。		
参考文献	特に指定しない。		
評価の方法	定期試験、小テスト(2回)、平常点(出席回数を含む)		
学生への メッセージ	授業の進め方と評価方法については初回のガイダンスで詳しく説明する。また、テキストを必ず持参すること。		

科目名	財政のしくみ	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			経済	□必修 ■選択
			マネジメント	□必修 ■選択
英文表記		開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	かわい のぶはる	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	河合 伸治	修得単位	2単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕 財政の基本的なしくみを理解する。 〔テーマ〕 財政はどのようなしくみになっているのか？			
準備学習	入門経済学で習得した知識があることを前提に講義を進めていきますので、授業の復習をしておいて下さい。			
【授業概要】 財政の基本的なしくみが理解できるような授業を展開していきます。				
授業計画				
第1回 ガイダンス 財政とは① - 市場と政府-				
第2回 財政とは ② - 財政の3つの役割(①資源配分②所得再分配③経済安定化)-				
第3回 財政制度 ① - 予算の仕組み-				
第4回 財政制度 ② - 予算の編成・執行・決算-				
第5回 財政制度 ③ - 財政投融资-				
第6回 財政制度 ④ - 日本の財政運営の概観-				
第7回 財政収支 ① - 財政収支とは何か-				
第8回 財政収支 ② - 財政赤字の原因と問題点-				
第9回 財政収支 ③ - 財政のバランスシート				
第10回 財政収支④ - 世代会計-				
第11回 公共財 ① - 公共財とは何か				
第12回 公共財 ② - 公共財の最適供給-				
第13回 公共財 ③ - 多数決と公共財の供給-				
第14回 公共財 ④ - 費用 - 便益分析-				
第15回 まとめ				
第16回 試験				
テキスト	必要に応じてプリントを配布します			
参考文献	授業中に適宜紹介して行きます			
評価の方法	出席点(確認テスト等も含む)40%, 試験60%			
学生へのメッセージ	財政学は応用経済学の一分野であり、経済学と同じく毎回の授業で得た知識を着実に積み上げていくことによって理解が深まる科目です。毎回の授業を確実にモノにできるよう、特に授業の復習に力点を置いて下さい。授業では適宜簡単な確認テスト等も行う予定です。			

科目名	現代ファイナンス論Ⅰ	科目分類	□教養科目 ■専門科目
			□必修 ■選択
英文表記	Theory of Modern Finance I	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	やまもと しゅん	開講期間	□前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	山本 俊	修得単位	2単位
授業の到達目標及びテーマ	ファイナンスの基本を身につけ、現実の金融取引の仕組みや新聞の金融記事を理解できるようになること。この分野における自らの関心事項の主体的学習を可能にすること。		
準備学習	①高校数学（特に、数列、微分）の復習。ただし、前提とはせずに、授業でもその都度説明するので、苦手な受講者はこの際に習得することを期待する。 ②授業の復習は必ずその日に行うこと。		
【授業概要】この授業ではファイナンスを広く捉え、金融の仕組み、金融の主体、金融制度、金融市場、各主体の理論、金融政策の基本を学習する。つまり、ファイナンスの各論を学ぶ「現代ファイナンス論Ⅱ」やバンキングを学ぶ「銀行の業務」の基礎科目として位置付けることができる。			
授業計画			
第1回 テーマ：金融の仕組み、講義資料配布（教科書1章） ガイダンス、金融の主体と資金循環、金融の方式と機能、金融仲介と金融機関、貨幣の機能			
第2回 テーマ：日本の金融制度、講義資料配布（教科書2章） 金融構造、家計・企業の資産保有、金融制度と金融機関、公的金融、規制緩和の変遷			
第3回 テーマ：日本の金融市場、講義資料配布（教科書3章を参考） 短期金融市場、証券市場、外国為替市場			
第4回、第5回 テーマ：金利と資産価格、講義資料配布（教科書4章） 第4回 流動性、利子率（名目・実質）、リスクプレミアム、利回りと債券価格 第5回 金利の機関別構造、株価決定、バブル			
第6回 テーマ：金融派生商品取引の概要、講義資料配布（教科書5章） 金融派生商品の特性、先物・先渡取引、スワップ取引、オプション取引			
第7回、第8回 テーマ：金融機関の機能、講義資料配布（教科書6章） 第7回 銀行行動の理論、信用創造、金融仲介機能と情報生産、モニタリング、規模の経済、範囲の経済 第8回 メインバンク制、情報の非対称性、逆選択とモラルハザード、信用割り当て			
第9回、第10回 テーマ：企業金融、講義資料配布（教科書7章） 第9回 企業の資金調達、投資の正味現在価値、投資の内部収益率、資本市場の完全性とMM定理 第10回 資本市場の完全性、エージェンシー・コスト、ペッキングオーダー、コーポレート・ガバナンス			
第11回、第12回 テーマ：金融政策、講義資料配布（教科書9章） 第11回 金融政策と中央銀行、金融政策の目標、金融政策の手段、日本銀行の金融調節 第12回 日本銀行の金融調節、金融政策の波及効果			
第13回、第14回 テーマ：決済と信用秩序、講義資料配布（教科書8章を参考） 第13回 決済システムとその展開、情報処理技術の進展と銀行システム、信用秩序の維持と公的介入 第14回 プルーデンス政策、金融監督政策とバーゼル合意とその変遷			
第15回 テーマ：繰り返される世界金融危機と銀行の再規制、講義資料配布 サブプライムローン、シャドウバンキングの抑制、ボルカールール、日米の金融システムの違い			
第16回 期末試験 試験範囲：第1回から第15回まで。			
テキスト	古川頭、『現代の金融』（第2版）東洋経済、2002年及び配布する講義資料。		
参考文献	①ボディ・マートン『現代ファイナンス論』（改訂版）ピアソンエデュケーション、2000年 ②我孫子勇一、『知っておきたい金融論』晃洋書房、2006年		
評価の方法	期末試験150点、小テスト100点、小レポート50点の合計点で評価。 A評価：80%以上、B評価：70%以上、C評価：60%以上、D評価：50%以上 小テストは受講者が理解度を自ら確認するという意味でも重要である。 試験については努力が報われるような出題を心がける。		
学生へのメッセージ	どのような分野で活躍するにも金融の基本事項は必須であるので、多くの受講者を歓迎する。この授業では、新しい知識を習得すること以上に、考えるプロセスを重視する。		

科目名	資本主義経済のしくみ I	科目分類	専門・選択
		開講年次	2年次
英文表記	Capitalism I	開講期間	前期
ふりがな	しまだ こうや	単位数	2単位
担当者名	嶋田 耕也		
授業の到達目標 及びテーマ	商品・貨幣・資本の基礎知識とその歴史を学び、自分の頭でイメージできるようになること。		
<p>【授業概要】 現代世界の中心的経済システムである資本主義を基礎概念から理解し、それら抽象的概念がどのように歴史に作用してきたのか、前期では20世紀前の資本主義の分析を課題とする。 新聞は生きた教材ですので、新聞をよく読む習慣をつけましょう。</p>			
授業計画			
第1回 経済学とはどのような学問か			
第2回 歴史の二区分—前近代と近代			
第3回 商品生産と貨幣			
第4回 投資、貨幣の資本への転化			
第5回 資本の運動式 (1)			
第6回 資本の運動式 (2)			
第7回 資本の歴史性 (1)			
第8回 資本の歴史性 (2)			
第9回 第一次産業革命 (1)			
第10回 第一次産業革命 (2)			
第11回 重商主義とアダム・スミス			
第12回 自由主義政策 (1)			
第13回 自由主義政策 (2)			
第14回 金本位制度			
第15回 19世紀国際資本主義			
第16回 テスト			
テキスト	使用せず。プリント配布、および板書。		
参考文献	授業時に指示します。		
評価の方法	出席数とテストの点数。		
学生への メッセージ	学んだことで世の中の出来事を少しでも理解できるように。		

科目名	日本経済の歩み I	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			経済学科	□必修 ■選択
			マネジメント学科	□必修 ■選択
英文表記	Japanese Economic History I	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	すずき たつろう	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	鈴木 達郎	修得単位	2単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕 日本経済の歴史的特質を明らかにすること 〔テーマ〕 両大戦間期と戦後復興期の日本経済			
準備学習	最初の授業で話す時期区分を常に念頭においておくこと。また、手元に年表を常においておくこと。			
【授業概要】 第1次世界大戦から第2次世界大戦にかけての日本経済を検討し、なぜ日本は「軍事大国」への道を歩むことになったのかを考察する。次いで、戦前型経済システムの解体をもたらしたと同時に、戦後型経済システム成立の前提ともなった戦後改革や日本経済の復興のあり方を考える。				
授業計画				
第1回 講義案内一近・現代日本経済の見取り図一				
第2回 大戦景気と慢性不況				
第3回 井上財政				
第4回 昭和恐慌				
第5回 高橋財政				
第6回 日中戦争期の統制経済				
第7回 太平洋戦争期の統制経済				
第8回 小括一両大戦間期の日本経済の特質一				
第9回 占領政策				
第10回 財閥解体				
第11回 労働改革と農地改革				
第12回 傾斜生産方式				
第13回 ドッジラインと朝鮮戦争特需				
第14回 労使の攻防				
第15回 小括一戦後復興期の日本経済の特質一				
第16回 定期試験				
テキスト	テキストは使用しない。講義のなかで資料を配付する。			
参考文献	講義のなかで紹介する。			
評価の方法	プリントの提出および定期試験によって総合的に判定する。			
学生へのメッセージ	戦争の時代と戦後の混乱の時代、歴史の醍醐味を味わってください。			

科目名	欧米の産業と交易の歴史 I	科目分類	専門 / 選択
		開講年次	2
英文表記	European and American Economic History I	開講期間	前期
ふりがな	しらかわ きんや	単位数	2
担当者名	白川 欽哉		
授業の到達目標及びテーマ	中世から近代への転換において商業（流通）と手工業・工業（生産）の変化が果たした意味をつかむ		
事前学習	受講にあたっては、世界史（古代と中世のヨーロッパ）の勉強をしっかりとしておいて下さい。		
【授業概要】本講義では、世界史のさまざまな事象を、生産と流通を軸に類型化します。講義は平易な表現で行い、必要不可欠な専門用語については可能な限り詳しく解説します。講義では、普段聞き慣れない地名（例：フランドル・ブラバントなど）や当該地域の産業についての説明が登場しますので、ヨーロッパやアメリカの地誌（農業、鉱産資源など）についてあらかじめ勉強しておいて下さい。			
授業計画			
第1回 欧米の経済史を学ぶ			
第2回 ヨーロッパの誕生 — ローマ帝国からの自立化 —			
第3回 十字軍と「商業の復活」 — イスラムとキリスト教 —			
第4回 ヴァイキングロードと西欧、東欧の誕生			
第5回 遍歴商人の定住と新しい都市の誕生			
第6回 自治都市の形成と発展			
第7回 大航海時代以降の構造転換 — 重商主義の時代へ —			
第8回 オランダの独立と繁栄 — スペインの時代の終焉 —			
第9回 毛織物の生産と輸出をめぐる競争 — アメリカ大陸と東南アジアへの接近 —			
第10回 オランダの凋落とイギリスの台頭			
第11回 イギリス綿工業の勃興と成長 — 産業革命 —			
第12回 イギリス工業のフルセット化 — 産業革命と新興工業部門の成長 —			
第13回 フランス革命と「営業の自由」			
第14回 ドイツ関税同盟と鉄道建設			
第15回 総まとめ			
第16回 筆記試験			
テキスト	石坂昭雄・舟山榮一・宮野啓二・諸田實編著『西洋経済史』（有斐閣）		
参考文献	石坂昭雄・壽永欣三郎・山下幸夫・諸田實編著『商業史』（有斐閣）		
評価の方法	筆記試験の点数と出席率の総合評価（出席3分の2以上の学生のみ評価します）		
学生へのメッセージ	講義で学んだことを、いま一度テキストを使って深めてみましょう		

科目名	経済政策のしくみ	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			経済	□必修 ■選択
英文表記	Policy of Economy	開講年次	□1年 □2年 ■3年 ■4年	
ふりがな	のぐち ひでゆき	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	野口 秀行	修得単位	2 単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 21世紀の日本経済の行方 〔テーマ〕 日経新聞が理解できる社会人に。			
準備学習	※授業の前に学生が主体的に行って欲しいことの指示を記入ください。 例) ・授業の前に新聞に目を通しておくこと ・〇〇に関わることを常に意識すること ・～について復習しておくこと			
【授業概要】 日本経済の復活と経済政策との関連を学ぶとともに、今後予想される総人口の減少、地球温暖化などの環境制約、資源制約、BRICSの台頭など、日本経済を取り巻く諸課題を克服していくための経済政策について検討する。				
授業計画				
第1回 戦後の日本経済の復興とそれを支えた経済政策				
第2回 臨海工業団地の創生とその背景(発想の転換・裏日本の誕生)				
第3回 太平洋戦争の失敗から生まれた日本工業規格 (失敗学)				
第4回 1950年代に創業した企業群と高度成長 (マインド・セットとは)				
第5回 オイルショックと産業構造転換 (重厚長大→軽薄短小→知識・情報へ)				
第6回 ジャパンアズナンバーワンと日米欧の貿易戦争 (トップになれなかった日本)				
第7回 ビル・エモット「日はまた沈む」(バブル経済と日銀金融論の破綻)				
第8回 総人口減少と科学技術大国への道そしてビル・エモット「日はまた昇る」				
第9回 米国の復権と世界的な金融資産の膨張 (1994.4.19が意味するもの?)				
第10回 世界的なバブル経済とその破綻としてのリーマンショック				
第11回 リーマンショック後の世界経済のパラダイムシフト				
第12回 金融危機を招いたCDSとその仕組み・証券化とは				
第13回 中国をはじめとするBRICSの台頭とそれに続くVISTA				
第14回 日本経済の実相 (ジニ係数・外需依存度・経常収支・財政を中心に)				
第15回 世界経済の構造変革を読み解く (地域・技術・資源・環境)				
第16回 期末試験				
テキスト	プリント配布			
参考文献	追って連絡します			
評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。			
学生への メッセージ	経済を面白く楽しく学びます			

科目名	経済学の歴史 I	科目分類	専門・選択
		開講年次	3 年次
英文表記	The History of Economic Thought	開講期間	前期
ふりがな	しまだ こうや	単位数	2 単位
担当者名	嶋田 耕也		
授業の到達目標 及びテーマ	古典学派、マルクス、新古典派への理論的变化をしっかりと把握すること。それぞれの学派を学ぶことで、経済学が何を問題としているのか、理解しよう。		
<p>【授業概要】 スミスの思想とは何か、皆さんに十分説明したい。リカードをへてマルクスに何が受け継がれたのか。そして新古典派はマルクスの何を批判したのか。難解なワルラスを皆さんに平易に教授したい。</p> <p>西欧のこれら学説は、皆さんには無関係なものと思われるかもしれませんが、すべて現実生活に大きく関連しています。この授業の現実感覚のために是非新聞を読みましょう。</p>			
授業計画			
第1回 アダム・スミス 経済学の父			
第2回 アダム・スミスと重商主義			
第3回 アダム・スミスと重農主義			
第4回 アダム・スミスの経済理論 (1)			
第5回 アダム・スミスの経済理論 (2)			
第6回 デービッド・リカードの経済理論 (1)			
第7回 デービッド・リカードの経済理論 (2)			
第8回 カール・マルクスと資本論			
第9回 カール・マルクスの経済理論 (1)			
第10回 カール・マルクスの経済理論 (2)			
第11回 新古典学派 ジェヴォンズ、ワルラス、メンガー			
第12回 効用価値学説と限界革命			
第13回 ワルラスの経済学 (1)			
第14回 ワルラスの経済学 (2)			
第15回 ワルラスの経済学 (3)			
第16回 テスト			
テキスト	使用せず。プリント配布、および板書。		
参考文献	授業時に指示します。		
評価の方法	出席回数とテストの点数。		
学生への メッセージ	18 世紀、19 世紀の経済学者が中心ですが、彼らの理論の理解なくして現代は把握できません。		

科目名	地方の財政	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
				□必修 ■選択
			□必修 □選択	
英文表記		開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
ふりがな	かわい のぶはる	開講期間	□前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	河合 伸治	修得単位	2単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 地方財政の基本的なしくみを理解する。 〔テーマ〕 地方財政はどのようにしくみになっているのか？			
準備学習	入門経済学・ミクロ経済学・マクロ経済学・財政のしくみ・財政と国民生活等で習得した知識があることを前提に講義を進めていきますので、授業の復習をしておいて下さい。			
【授業概要】 地方財政の基本的なしくみが理解できるような授業を展開していきます。				
授業計画				
第1回 ガイダンス 地方財政の実態				
第2回 国と地方の機能分担				
第3回 制度としての地方財政				
第4回 地方公共支出の経済学 ① - 公共支出の効率化-				
第5回 地方公共支出の経済学 ② - 公共サービスの最適供給-				
第6回 地方団体の行財政改革				
第7回 広域行政と狭域行政				
第8回 地方財の体系と原則				
第9回 地方税の改革				
第10回 国庫支出金と地方財政 ① - 国庫支出金の構造-				
第11回 国庫支出金と地方財政 ② - 国庫支出金の経済分析-				
第12回 地方交付税と財政調整				
第13回 地方債の発行と国の関与				
第14回 地域づくりと地方団体の役割				
第15回 少子高齢社会と地方財政				
第16回 試験				
テキスト	必要に応じてプリントを配布します			
参考文献	授業中に適宜紹介して行きます			
評価の方法	出席点(確認テスト等も含む)40%, 試験60%			
学生への メッセージ	財政学は応用経済学の一分野であり、経済学と同じく毎回の授業で得た知識を着実に積み上げていくことによって理解が深まる科目です。毎回の授業を確実にモノにできるよう、特に授業の復習に力点を置いて下さい。授業では適宜簡単な確認テスト等も行う予定です。			

科目名	コミュニティ・ビジネス	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			経済	□必修 ■選択
			経済	□必修 ■選択
英文表記	Community Business	開講年次	□1年 ■2年 ■3年 ■4年	
ふりがな	のぐち ひでゆき	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	野口 秀行	修得単位	2 単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 オールタナティブ・エコノミーの最先端を学ぶ 〔テーマ〕 コミュニティ・ビジネスが地域を活性化する			
準備学習	・事前配布のプリントに目を通しておくこと			
【授業概要】 コミュニティ・ビジネスの目的は、住民主体のスモールビジネスを導入し、コミュニティに存在する様々な問題の解決に貢献することにあるが、それはボランティアと企業の中間的な領域に位置しているものであり、地域社会のネットワークに支えられて成立しうるものでもある。各地で芽吹きつつあるコミュニティ・ビジネスは、バランスの取れた経済社会の発展を支えるという側面からみても、社会的な意義は大きいといえる。				
授業計画				
第1回	コミュニティ・ビジネスとは			
第2回	もう一つの経済（ノン・プロフィット・エコノミー）			
第3回	NPOとコミュニティ・ビジネス			
第4回	欧米におけるコミュニティ・ビジネスの事例			
第5回	我が国におけるコミュニティ・ビジネスの事例（1）			
第6回	我が国におけるコミュニティ・ビジネスの事例（2）			
第7回	我が国におけるコミュニティ・ビジネスの事例（3）			
第8回	コミュニティ開発とコミュニティ・ファイナンス			
第9回	コミュニティ・ファイナンスとは			
第10回	米国におけるコミュニティ・ファイナンス			
第11回	英国におけるコミュニティ・ファイナンス			
第12回	我が国におけるコミュニティ・ファイナンスの事例（1）			
第13回	我が国におけるコミュニティ・ファイナンスの事例（2）			
第14回	地域ファンド・環境ファンド			
第15回	地域づくりとコミュニティ・ビジネス			
第16回	期末試験			
テキスト	プリント配布			
参考文献	追って連絡します			
評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。			
学生への メッセージ	本講義では、コミュニティ・ビジネスとそれを支えるコミュニティ・ファイナンスについて学びます。			

科目名	農業と経済	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			経済学科	□必修 ■選択
				□必修 □選択
英文表記	Agricultural Economy	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
ふりがな	すずき たつろう	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	鈴木 達郎	修得単位	2単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕日本農業再生の方途を考える 〔テーマ〕日本農業——再生か解体か			
準備学習	TPP および農業改革をめぐる報道に留意すること			
【授業概要】 1999年に施行された食料・農業・農村基本法＝新基本法は、「食料の安定供給」を確保し、「多面的機能」を発揮する日本農業の「持続的な発展」をめざし、その基盤となる「農村の振興」を図ることを「基本理念」として掲げた。果たしてこの「基本理念」は現実のものとなるのであろうか。まず、小農制農業の基礎理論を学び、次いで、それを理論的武器として、再生か解体かの重大な岐路に立たされている日本農業の現状を分析する。				
授業計画				
第1回 課題と視角				
第2回 企業制農業論①——イギリス農業の展開				
第3回 企業制農業論②——農産物価格と地代				
第4回 小農制農業論①——アメリカのファミリーファーム				
第5回 小農制農業論②——日本の自作農				
第6回 小農制農業論③——農産物価格と地代				
第7回 農地改革				
第8回 農業基本法				
第9回 食料・農業・農村基本法①				
第10回 食料・農業・農村基本法②				
第11回 日本農業と食料安全保障				
第12回 日本農業と環境保全				
第13回 日本農業の再生①——地産地消と地域ブランド				
第14回 日本農業の再生②——スローフードと食育				
第15回 日本農業の再生③——グリーン・ツーリズム				
第16回 定期試験				
テキスト	テキストは使用しない。講義のなかで資料を配付する。			
参考文献	講義のなかで紹介する。			
評価の方法	出席および定期試験によって総合的に判定する。			
学生へのメッセージ	平成23年度は日本農業にとってまさに岐路の年となるでしょう。			

科 目 名	経営学 I (現代社会と企業)	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			経済	■必修
		マネジメント	■必修□選択	
英文表記	Business Administration I	開講年次	■1年□2年□3年□4年	
ふりがな	まつながくにまさ	開講期間	■前期□後期□通年□集中	
担当者名	松永州正	単位数	2単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 経営学という学問の性格、経営学に関する基礎知識の獲得 〔テーマ〕 経営学の対象である企業を分析する際の基礎的視点の理解			
準備学習	事前にテキストの関連部分を読んでおくことが望ましい。			
授業概要	本講義は経営学の入門編である。はじめに、経営学という学問の対象について考える。その上で、今日の経済活動の中心である企業行動に関する基礎的な考察を行う。			
授業計画				
第1回 経営学とは何か—現代社会における企業の活動と経営学—				
第2回 組織としての企業—組織の定義から—				
第3回 企業組織の有効性と効率性—組織としての企業の戦略—				
第4回 企業組織における個人の行動(1)—モチベーションの古典的理論—				
第5回 企業組織における個人の行動(2)—モチベーションの現代的理論—				
第6回 企業組織における集団の行動(1)—集団という考え方—				
第7回 企業組織における集団の行動(2)—コミュニケーション—				
第8回 企業組織とリーダーシップ				
第9回 企業組織と管理者				
第10回 企業と組織文化				
第11回 企業と組織構造				
第12回 企業と組織構造のデザイン				
第13回 企業の経営戦略と目標・目的・標的				
第14回 経営戦略と経営資源				
第15回 企業の競争戦略とドメイン戦略				
第16回 期末試験				
テキスト	榊原清則(2002)『経営学入門(上)』日本経済新聞社			
参考文献	授業中に紹介する。			
評価の方法	期末試験を中心に、授業中に課す課題を加味して評価する。			
学生への メッセージ	本講義を通じて、経営学という学問の性格を理解できれば、たいへん望ましいことである。			

科目名	刑法総論	科目分類	<input type="checkbox"/> 教養科目 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目
			法律 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
			観光 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Criminal Law (general part)	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	あきやま えいいち	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	秋山 栄一	修得単位	4 単位
授業の到達目標 及びテーマ	犯罪論の基本的理解		
準備学習	指定されたテキストに一通り目を通し、その上で、次回の講義の単元を読む。また、日々の報道に関心をもち、社会の出来事に目を向け、耳を傾けることを望む。		
授業概要	犯罪と刑罰に関する法律である刑法は、私達の日常生活に密接にかかわっている。刑法は身近な存在でなければならない。市民に理解された行為規範として機能すべきである刑法は、その理論性、思想性を前提とした学説の対立の激しさの故に、敬遠されがちである。そこで、本講義では、基本用語の理解から刑法の機能や犯罪の理論的把握、刑罰の根拠などの基本的問題について理解しやすくするために、判例の動向や事例を活用して体系的に段階的に議論を進めていく。なお、講義の進行方式としては、毎回レジュメを配布し、その流れに従っていく予定である。それ故、必ずしも指定のテキストの順序に従うとは限らないことがあることをお断りしておく。		
授業計画			
第1回 講義ガイダンス 刑法を学ぶ前提としての基本概念の理解	第17回 責任論の本質と構造		
第2回 刑法及び刑法学の概念 刑法の意義、規範、機能	第18回 責任能力		
第3回 刑法及び刑法理論 刑法思想・学説史	第19回 責任故意・過失と違法性の意識、錯誤		
第4回 刑法の基本主義 罪刑法定主義、責任主義等	第20回 期待可能性		
第5回 犯罪論の基礎と体系	第21回 修正された構成要件該当性①未遂犯		
第6回 構成要件の意義と機能	第22回 修正された構成要件該当性②未遂犯②		
第7回 基本的構成要件該当性①実行行為	第23回 修正された構成要件該当性③ 共犯論の基礎、共同正犯		
第8回 基本的構成要件該当性②因果関係	第24回 修正された構成要件該当性④教唆犯・従犯		
第9回 基本的構成要件該当性③ 構成要件の故意・過失、錯誤	第25回 修正された構成要件該当性⑤ 共犯をめぐる諸問題		
第10回 違法性の本質	第26回 小括		
第11回 違法性阻却事由① 正当防衛	第27回 罪数論		
第12回 違法性阻却事由② 緊急避難	第28回 刑罰論の本質		
第13回 違法性阻却事由③ 正当行為	第29回 刑の種類、刑の量定、執行		
第14回 違法性をめぐる諸問題	第30回 後半の総括		
第15回 前半の総括	第31回 全体の総括		
第16回 試験①	第32回 試験②		
テキスト	大塚仁『刑法入門〔第4版〕』有斐閣 2003		
参考文献	大塚仁『刑法概説第〔第4版〕』有斐閣 2008、西田典之・山口厚編『刑法判例百選 I 〔第6版〕』有斐閣		
評価の方法	2/3以上の出席を前提として、出席30%、試験70%の割合で、厳正に評価する		
学生への メッセージ	指定テキスト・最新の六法・ノート・毎回配布するレジュメを必携のここと、また積極的な講義参加を望む		

科目名	政治史 I	科目分類	教養・選択
英文表記		Modern Political History of Japan I	開講年次
ふりがな	あそむら くにあき	開講期間	前期
担当者名	阿曾村 邦昭	単位数	2
授業の到達目標 及びテーマ	近代国家日本を形成した明治維新は如何にして可能であったかを学ぶ		
【授業概要】 近代日本政治外交史への入門コース。高校で学んだ日本史や世界史の知識をもとに、非欧米世界において唯一近代化に成功した明治維新の経緯、内容、問題点を明らかにする。			
授業計画			
第1回	近代化の前提としての江戸時代		
第2回	東アジア政治秩序に対する阿片戦争の衝撃（1）		
第3回	（2）（映像「阿片戦争」）		
第4回	黒船、不平等条約・開国（映像、坂本龍馬が見た「黒船」）		
第5回	尊王攘夷		
第6回	幕末の動乱（1）		
第7回	（2）		
第8回	近代国家の誕生		
第9回	幕末から明治維新にかけての民衆		
第10回	廃藩置県と中央集権的官僚制		
第11回	地租改正と殖産興業		
第12回	琉球処分と台湾遠征・征韓論		
第13回	対欧米外交		
第14回	士族の没落と半反乱（西南戦争）		
第15回	明治維新の指導者としての武士		
第16回	試験		
テキスト	井上勝生、幕末・維新（岩波新書）および坂野潤治・大野健一、明治維新（講談社現代新書）		
参考文献			
評価の方法	出席と試験		
学生への メッセージ	（1）高校で使用した歴史教科書をもう一度読んだ上で、教科書を熟読する。 （2）明治維新時代に関する歴史書、小説など手当たり次第に読んでみる。		

科目名	生活と政治 I	科目分類	教養・選択
		開講年次	1
英文表記	Life and Politics I	開講期間	後期
ふりがな	あそむら くにあき	単位数	2
担当者名	阿曾村 邦昭		
授業の到達目標 及びテーマ	政治を観る目を養う		
【授業概要】 政治学の入門コース。高校で学んだ知識をもとに、政治の見方について出来るだけ平易な講義になるように努め、あわせて各種公務員試験に役立つよう工夫する。現実に行っている国内外の政治問題について時宜に応じ解説し、映像を活用しつつ、理解を深める。			
授業計画			
第1回	政治とは何か		
第2回	政治学とは何か：その意義と研究方法		
第3回	政治権力論 (1) 概念と機能		
第4回	(2) 支配のための統治		
第5回	(3) 政治的リーダーと大衆		
第6回	(4) 権力の交替と革命		
第7回	(5) キューバ革命の実情 (映像)		
第8回	政治制度論 (1) 近代国家の基本原理		
第9回	(2) 米国の大統領制		
第10回	(3) 英国の議員内閣制		
第11回	(4) 日本の統治機構とその特色		
第12回	(5) 日本国憲法の制定過程とその問題点		
第13回	国際政治制度としての国際連合 (その1)		
第14回	(その2)		
第15回	講義の統括と問題演習		
第16回	試験		
テキスト	中村昭雄、基礎からわかる政治、声書房		
参考文献	アックス・ウェバー、職業としての政治、岩波文庫		
評価の方法	出席と試験		
学生への メッセージ	以下の3点を実行すること。(1)教科書をよく読む(2)政治問題についての各紙の社説を比較しつつ、自分なりに考えてみる(3)疑問の点を教員に質問する		

科目名	人権	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			法律	■必修 □選択
			観光	□必修 ■選択
英文表記	Human right	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	さとう ひろとし	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	佐藤 寛稔	修得単位	4 単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕 芦部憲法学の徹底理解 〔テーマ〕 人権の論理と価値			
準備学習	教科書の熟読を徹底すること。暗記するつもりで繰り返し、繰り返し読むこと。			
授業概要	元々、「人権」という概念は「西洋」「近代」の政治思想の中から生み出されたものである。この地理的にも時代的にも狭い範囲から生まれた考え方が、人類普遍の原理に高められた経緯について学ぶ。			
授業計画				
第1回	ユニヴェルシタスと近代	第17回	思想・良心の自由、学問の自由	
第2回	憲法とは何か	第18回	信教の自由	
第3回	憲法と立憲主義	第19回	政教分離	
第4回	近代憲法の現代的展開	第20回	表現の自由Ⅰ	
第5回	大日本帝国憲法の展開	第21回	表現の自由Ⅱ	
第6回	日本国憲法の成立	第22回	表現の自由Ⅲ	
第7回	人権の観念	第23回	職業選択の自由	
第8回	人権の享有主体	第24回	財産権	
第9回	人権の保障範囲	第25回	人身の自由	
第10回	人権の限界	第26回	国務請求権	
第11回	二重の基準論	第27回	生存権	
第12回	個人の尊重と幸福追求権	第28回	労働基本権	
第13回	プライバシー・自己決定権	第29回	教育を受ける権利	
第14回	法の下での平等	第30回	参政権	
第15回	まとめの講義	第31回	予備	
第16回	中間試験	第32回	期末試験	
テキスト	芦部信喜・『憲法(第5版)』・(岩波書店)			
参考文献	授業中に適宜指示する。			
評価の方法	期末試験、中間試験による。試験は持込一切不可。 なお、いかなる事情があっても欠席回数が10回以上の者には単位を認定しない。			
学生へのメッセージ	憲法学は、入るやすく出ていく学問と言われる。受講生には抽象的な思考に堪えるタフさを求める。			

科目名	犯罪の原因と対策 (刑事政策)	科目分類	<input type="checkbox"/> 教養科目 <input checked="" type="checkbox"/> 専門科目
			<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択
			<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Criminology	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年
ふりがな	ちゅうじょう しんいちろう	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中
担当者名	中條 晋一郎	修得単位	4単位
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 犯罪の原因と対策についての諸理論と実践を学び、理解する。 〔テーマ〕 刑事政策の理論と実践を学ぶ		
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回学習した箇所について、教科書・ノート・配布資料を用いて復習しておくこと。 ・ 次回学習する箇所について、教科書を読んで予習しておくこと。 		
授業概要	<p>刑罰法令を定めるだけでは、犯罪対策として十分ではない。逮捕、刑事裁判手続き、そして刑の執行という一連の刑事司法手続きが、法律や規則に基づき適切に行われなければ、犯罪をなくすことはできない。そして、そのプロセスの根底には、再犯を防ぎ、犯罪者の社会復帰を支援するという社会復帰理念がある。この講義では、刑事政策の理念と実践を、歴史や犯罪現象の分析などを交えながら解説する。</p>		
授業計画			
第1回 この講義についてのガイダンス/ 刑事政策とは何か	第17回 刑事司法・少年司法機関		
第2回 刑事政策の歴史(1) ～近代刑事政策の誕生～	第18回 刑罰(1) ～生命刑～		
第3回 刑事政策の歴史(2) ～現代の刑事政策理論の動向～	第19回 刑罰(2) ～自由刑～		
第4回 犯罪の原因論(1)	第20回 刑罰(3) ～財産刑～/ 保安処分		
第5回 犯罪の原因論(2)	第21回 犯罪者処遇の意義		
第6回 わが国の犯罪情勢～犯罪統計から～	第22回 監獄法改正と犯罪者処遇の新展開		
第7回 各種犯罪の動向(1) ～交通犯罪～	第23回 施設内処遇		
第8回 各種犯罪の動向(2) ～薬物犯罪～	第24回 社会内処遇		
第9回 各種犯罪の動向(3) ～組織犯罪～	第25回 少年保護手続き(1)		
第10回 各種犯罪の動向(4) ～高齢者犯罪～	第26回 少年保護手続き(2)		
第11回 各種犯罪の動向(5) ～外国人犯罪～	第27回 少年保護手続き(3)		
第12回 各種犯罪の動向(6) ～企業犯罪～	第28回 犯罪被害者の支援と法的地位(1)		
第13回 各種犯罪の動向(7) ～性犯罪～	第29回 犯罪被害者の支援と法的地位(2)		
第14回 各種犯罪の動向(8) ～家庭内・近親者間犯罪～	第30回 刑事司法の国際化と犯罪対策		
第15回 少年非行の現状	第31回 期末試験		
第16回 刑事制裁総説 ～刑罰・処分～	第32回		
テキスト	守山正・安部哲夫(編著)『ビギナーズ刑事政策』(成文堂・2008年)		
参考文献	矢島正見他(編著)『改訂版よくわかる犯罪社会学入門』(学陽書房・2009年)		
評価の方法	期末試験の点数と講義内で実施する小テストの点数との合計点で、評価をする。		
学生への メッセージ	教科書を必ず購入し、毎回の講義には六法全書とあわせて持参すること。また、講義中の私語は、真剣に講義に臨む者を妨害する行為であるから、断固許さない。		

科目名	いろいろな犯罪 (刑法各論)	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			法律	□必修 ■選択
			観光	□必修 ■選択
英文表記	Criminal Law II	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	ちゅうじょう しんいちろう	開講期間	□前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	中條 晋一郎	修得単位	4単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕刑法各論分野の基礎理論について、学説や判例の検討を通して学び、理解する。 〔テーマ〕刑法各論の理論を学ぶ			
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・前回学習した箇所について、教科書・ノート・配布資料を用いて復習しておくこと。 ・次回学習する箇所について、教科書を読んで予習しておくこと。 			
授業概要	<p>新聞やニュース番組の報道で、なぜこの犯人はこの罪名で逮捕されたのか、不思議に思うことがあるかもしれない。「強盗罪」で逮捕されたひったくり犯、などがその例だろう。その行為がどの罪に当たるのかを判断するためには、刑法に定める条文の文言を「解釈」し、犯罪それぞれの成立要件と効果についての「個別のかつ具体的」な検討を行うことが必要となる。この講義では、事例を用いながら、刑法各論の基礎を解説する。</p>			
授業計画				
第1回	この講義についてのガイダンス/ 「刑法各論」とは何か?	第17回	騒乱の罪	
第2回	殺人の罪/「人」の「始期」と「終期」	第18回	放火及び失火の罪/ 出水及び水利に関する罪	
第3回	傷害の罪/過失傷害の罪	第19回	往来を妨害する罪	
第4回	堕胎の罪/遺棄の罪	第20回	あへん煙に関する罪/ 飲料水に関する罪	
第5回	逮捕及び監禁の罪/脅迫の罪/ 住居を侵す罪	第21回	偽造罪総説/ 文書偽造の罪	
第6回	略取、誘拐罪及び人身売買の罪/ 強制わいせつ、姦淫の罪	第22回	通貨偽造罪/ 有価証券偽造罪 etc	
第7回	秘密に対する罪/名誉に対する罪	第23回	風俗に対する罪	
第8回	信用・業務に対する罪	第24回	国家法益に対する罪・総説	
第9回	財産権に対する罪・総説	第25回	内乱の罪/外患に関する罪/ 国交に関する罪	
第10回	窃盗の罪	第26回	公務執行妨害の罪	
第11回	強盗の罪	第27回	司法作用に対する罪	
第12回	詐欺・恐喝の罪	第28回	汚職の罪	
第13回	横領の罪/背任の罪	第29回	刑事特別立法の諸問題(1) ～薬物事犯の取り締まりと立法～	
第14回	盗品等に関する罪/	第30回	刑事特別立法の諸問題(2) ～交通関係事犯の取り締まりと立法～	
第15回	毀棄及び隠匿の罪	第31回	期末試験	
第16回	社会法益に対する罪・総説	第32回		
テキスト	松宮孝明『刑法各論講義〔第2版〕』(成文堂・2008年)			
参考文献	講義の中で紹介する。			
評価の方法	期末試験の点数と講義内で実施する小テストの点数との合計点で、評価をする。			
学生への メッセージ	教科書を必ず購入し、毎回の講義には六法全書とあわせて持参すること。また、講義中の私語は、真剣に講義に臨む者を妨害する行為であるから、断固許さない。			

科目名	さまざまな契約	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			法律学科	■必修 □選択
			観光学科	■必修 □選択
英文表記	LawofObligation(Particular)	開講年次	□1年□2年 ■3年 □4年	
ふりがな	メン カンソブ	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	孟 観燮	修得単位	4単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕さまざまな契約を学ぶと、社会の仕組みがより深く理解できます。 〔テーマ〕契約と法定債権（事務管理、不当利得、不法行為）			
準備学習	授業前に、テキストに目を通しておくこと			
授業概要	債権各論は、契約、事務管理、不当利得、不法行為に分かれています。実際の事例も見ながら、債権発生原因について一緒に考えることを目指します。			
授業計画				
第1回 契約の基礎1	第17回 贈与			
第2回 契約の基礎2	第18回 消費貸借、使用貸借			
第3回 契約の基礎3	第19回 賃貸借1			
第4回 契約の成立	第20回 賃貸借2			
第5回 契約の効力1	第21回 賃貸借3			
第6回 契約の効力2	第22回 請負			
第7回 契約の効力3	第23回 委任、寄託、組合、和解			
第8回 契約の解除1	第24回 事務管理1			
第9回 契約の解除2	第25回 事務管理2			
第10回 契約の解除3	第26回 不当利得1			
第11回 売買1	第27回 不当利得2			
第12回 売買2	第28回 不法行為1			
第13回 売買3	第29回 不法行為2			
第14回 売買4	第30回 不法行為3			
第15回 まとめ	第31回 まとめ			
第16回 中間試験	第32回 期末試験			
テキスト	潮見佳男「債権各論Ⅰ」(新世社)			
参考文献				
評価の方法	試験(中間・期末試験—総点80点)と出席状況(欠席2回まで-20点。欠席3回以上4回まで-15点。欠席5回以上6回まで-10点。欠席7回以上9回まで-5点。10回以上—受験資格なし)			
学生へのメッセージ	日常生活の中での契約について考えてみましょう。			

科目名	生活と物権 (物権法)	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			法律	■必修 □選択
			観光	□必修 ■選択
英文表記	Property Law	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	よこた さとし	開講期間	□前期 □後期 ■通年 □集中	
担当者名	横田 敏史	修得単位	4 単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕物権法・担保物権法の基本的内容をこの授業において理解してもらうこと 〔テーマ〕物権法・担保物権法とはどのようなものか？			
準備学習	できれば、最初の授業前に米倉明『プレップ民法』（弘文堂、第4版増補版、2009年） を一通り読んでいると良い。 その後は、前回講義で学んだ内容についてテキストの該当頁を読んでおいて欲しい。			
授業概要	本講義では、常に具体例を提示し、それを基に物権法・担保物権法について基本的な理 解を深めることを目的とする。			
授業計画				
第1回	物権法概論・物権の内容	第17回	担保物権概論	
第2回	物権の効力	第18回	留置権	
第3回	物権変動の一般理論	第19回	先取特権	
第4回	不動産物権変動1	第20回	質権	
第5回	不動産物権変動2	第21回	抵当権の意義・性質	
第6回	不動産物権変動3	第22回	抵当権の効力1	
第7回	動産の物権変動1	第23回	抵当権の効力2	
第8回	動産の物権変動2	第24回	法定地上権	
第9回	占有権	第25回	共同抵当	
第10回	所有権1	第26回	抵当権の実行	
第11回	所有権2	第27回	根抵当権	
第12回	共有	第28回	非典型担保概論・仮登記担保	
第13回	建物区分所有権	第29回	譲渡担保1	
第14回	地上権・地役権	第30回	譲渡担保2	
第15回	永小作権・入会権	第31回	所有権留保	
第16回	中間試験	第32回	期末試験	
テキスト	小泉 健『物権法概説』（春風社）			
参考文献	内田貴『民法Ⅰ 総則・物権総論』（東京大学出版会、第4版、2008年）、内田貴『民法Ⅲ 債権総論・担保物権』（東京大学出版会、第3版、2008年）			
評価の方法	出席および定期試験による。			
学生への メッセージ	物権法・担保物権法は、民法の中でも特に難しい科目として考えられがちであるが、本 講義では基礎的なことを中心に講義していくので、気軽に受講して欲しい。			

科目名	旅行業法と約款	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			観光	□必修 ■選択
			法律	□必修 ■選択
英文表記	Tour Business Law & Articles of Contract	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
ふりがな	みちはた ただよし	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	道端 忠孝	修得単位	2 単位	
授業の到達目標及びテーマ	〔到達目標〕 受験対策としての旅行業法・旅行業約款 〔テーマ〕 いかにして企画旅行参加者は保護されているか			
準備学習	最低限、授業予定についての予習をし、ポイントをノートに整理してください。			
<p>【授業概要】 本稿は、旅行業務取扱管理者試験の出題科目である旅行業法と旅行業約款を対象とします。旅行業法は、根本的には、旅行者の保護を目的にしていますが、その保護のしくみ（登録制度、旅行業務取扱管理者制度、営業保証金制度、営業規制・取締り制度）を明らかにします。また、旅行業約款は、旅行者があらかじめ定める契約条項ですが、現在、標準旅行業約款が用いられていますので、この内容を中心に講義します。</p>				
授業計画				
第1回 旅行業法、旅行業務取扱管理者試験の概要				
第2回 旅行業法の目的・体系				
第3回 旅行業法の規制概要				
第4回 旅行業の定義				
第5回 旅行業の登録など				
第6回 営業保証金と弁済業務保証金分担金				
第7回 営業上の規制①				
第8回 営業上の規制②				
第9回 営業上の規制③				
第10回 標準旅行業約款の概要				
第11回 募集型企画旅行契約①				
第12回 募集型企画旅行契約②				
第13回 募集型企画旅行契約③				
第14回 受注型企画旅行契約				
第15回 手配旅行契約・旅行相談契約				
第16回 試験				
テキスト	開講時に指示する。			
参考文献	開講時に指示する。			
評価の方法	試験と出席状況・受講態度で総合評価します。			
学生へのメッセージ	自分がパック旅行に参加する場合を想定し、自分の心配や不安に対する法的な保護を考えてみましょう。			

科目名	楽しい海外旅行をするために	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
				□必修 ■選択
英文表記	How to Enjoy Traveling Abroad	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	いのうえ ひろし	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	井上 寛	修得単位	2 単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕安全に楽しく海外旅行できる力をつける 〔テーマ〕私たちの知らない外国を知ろう			
準備学習	海外旅行をテーマにしたテレビ番組や映画、旅行ガイドや雑誌に関心を持って読んでください。			
【授業概要】本講義では、①海外の様子を知ること、②海外旅行に必要な知識、③海外旅行をプランニングできる「技」を身につけることを楽しみながら学ぶことを目標とします。みなさんがプランニングしたユニークな海外旅行を長期休暇に実践できることをめざして頑張りましょう。				
授業計画				
第1回 ガイダンス				
第2回 海外旅行をする意義				
第3回 海外旅行の歴史—海外旅行はこうして始まった				
第4回 世界を知ろう				
第5回 自分の安全は自分でまもる				
第6回 バックパッカーの格安旅行術				
第7回 東アジアを旅する—韓国・中国				
第8回 東南アジアとシルクロードの旅				
第9回 ユーラシア大陸横断の旅				
第10回 大航海時代を旅する				
第11回 南北アメリカ				
第12回 ヨーロッパめぐり				
第13回 南極旅行するためには				
第14回 楽しい海外旅行レポートの発表会				
第15回 まとめ・復習				
第16回 定期試験				
テキスト	講義内で適宜資料を配布			
参考文献	旅行ガイド・パンフレット・WEBサイト			
評価の方法	定期試験とレポート、出席状況、発表等により総合的に評価			
学生への メッセージ	海外旅行をしたことがない人も「行ってみたい」と思えるような講義にしたいと思えます。地図帳(中学・高校で使用したもので可)があれば持参してください。			

科目名	ホテルビジネス論	科目分類	□教養科目 ■専門科目	
			法律	□必修 □選択
			観光	□必修 ■選択
英文表記	Hotel business	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	むかいやち ひろのぶ	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	向谷地 博信	修得単位	2単位	
授業の到達目標及びテーマ	ホテル事業を基本に、旅館を含む宿泊ビジネスとその関連事業に関しその全体像を把握し、以って学生の適性と関心に合致した将来の就職の展望を拓く			
準備学習	事前配布TEXTと関連する新聞記事を授業の前に目を通しておくこと。授業では各自最低1つの質問を課する			
【授業概要】				
ホテルに関わる最新の豊富な情報によりホテル事業の全体を包括的に理解する。また事例研究により考え表現する力を涵養する				
第1回 オリエンテーション				
第2回 ホテルの歴史と種類、ホテルと旅館との違い				
第3回 ホテルの施設設備と上手なホテルの利用の仕方				
第4回 宿泊・料飲・宴会部門の特性				
第5回 ホテルのブライダルビジネス				
第6回 ホテルのスパビジネス (外部講師による講演の予定)				
第7回 ホテルのマーケティング戦略—マーケット分析と販売戦略				
第8回 ホテルの職種と人事管理—ホテル就職のススメ				
第9回 ホテルの運営管理と収支構造—ユニフォームシステムによるホテル管理				
第10回 JAPANESE HOSPITALITY—日本のおもてなしは世界一				
第11回 事例研究I 「地域のホテル・旅館を調査する 着眼点と分析」				
第12回 世界のホテルチェーンとブランド戦略				
第13回 ホテルの事業開発—更地からホテルを建てる				
第14回 運営契約と国際交渉の実際—リスク管理とコミュニケーションの仕方				
第15回 まとめとキャリアデザイン				
第16回 試験				
テキスト	パワーポイントと資料			
参考文献	授業の中で紹介します			
評価の方法	出席数、試験、受講姿勢の総合評価			
学生へのメッセージ	ホテル事業は21世紀の日本の成長分野です。最新の豊富な事例に基づきホテルビジネスを科学します			